

≪一億の中の一人に僕がいる≫

国勢調査では、調査対象を「調査時において本邦内に住所を有する者」と規定している。10月1日に特別の限られた地域を除く日本国内にゝだん住んでいる人ゝはこの世帯からそれぞれ調査されることになる。国勢調査は支持調査区の調査対象を一人ももらさず調査することが大切である。日本の人口も増加し1億にならんとする。前回の国調による日本の人口は93百万人で世界の7番目に当たる。最新の日本統計年鑑による主たる国の人口は中国本土 582百万、インド435百万、ソ連208百万、米 100百万、インドネシア96百万となっている。

≪あじけなく病院で書く調査票≫

国調では、3カ月以上病院などの入院者自宅では記入せず病院からまとめて調査される。また旅行や出稼ぎなどで3か月以上欠けたり不在の者はそれぞれの出先から調査されることになるから注意が肝要である。ただでさえあじけない病院生活で家族の一員として調査票からはずされ入院先で記入されることは、なんとなくあじけなく感じることであろう。

≪住居不定いたぞお寺の縁の下≫

だん住んでいる世帯から調査される人問題は案外少ないと思われる。ただだん住んでいる人のほかに特別に規定されている者、例えば旅行中、入院者、寄宿、下宿の学生などの取扱に注意しなければならないが一番困るのは住居不定の者、浮浪者やテキ屋と称されるような住所が決まっていない人達を洩らさないことがむづかしいことである。

≪新世帯嬉しく妻と書く調査票≫

主、甘い新婚の嬉しく恥しい新ホーム、どんなことでも嬉しくて夢をみているような人生の最も良き時代これ過ぎるといよいよ社会の荒波に激しくゆすぶられて家庭のいざこざなどが起つてきて甘いムードがくずされる。調査票の続き柄に「妻」と書いてみてあらためて結

婚したということを再認識されるのではないだろうか。

≪「名付ず」と書く初孫の育ちぶり≫

10月1日の世帯員には9月30日までに生まれた赤ちゃんも記入されることは当然である。生れたばかりで名前は付けてないが、国調では堂々と一個の人間として取扱われる。一日一日とミルクをたつぶり飲んでむくむくと育つていく赤ちゃん、もちろん調査票には孫ではあつても「長男の長男」と記入することが正しい書き方である。

≪胸張つて「仕事」と記入アルバイト≫

国調では、たとえアルバイトであつても10月1日以前の1週間の事実によつて仕事をしたかどうかの別欄1おもに仕事2家事通学などのほかに仕事の何れかに○がつく、ここで仕事とは収入をとまなう仕事であるとされている。

≪調査票まず確しかめる世帯員≫

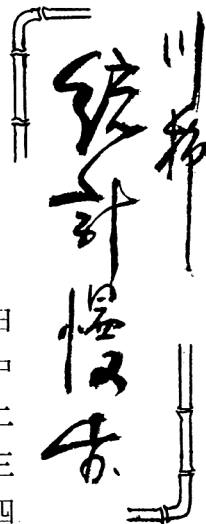
調査票の記入が終つたら世帯員に記入洩れがないかどうかを確かめてみる。調査員もまた然り、調査区内の各世帯の人員について世帯名簿と調査票世帯人員を突き合わせて重複や洩れのないように注意しなければならぬ。

≪老眼鏡かけて個票に線を入れ≫

今度の国調は早期公表のために、調査票から調査個票を作成する。マークカードといわれるこの個票はそのまま機械にかけて集計される仕組み、40才も過ぎるとそろそろ老眼、電灯の下で個票に記入するのは大変な仕事となる。

≪調査票そろつた晩の酔心地≫

何んでもそうだが一仕事終つたあとの晩酌は格別な美味、国勢調査のように神経を消耗する仕事の場合とはくにその感が深い。9月24日から始まつたこの仕事も調査票が全部まとまり、内容の検査も終つて正確なものとなつて、付属書類、調査区要図、世帯名簿などの副本、調査個票が全部揃つて提出するばかりになると、一つの仕事を完成した充実感と安らぎが酔心地をさそうようである。



田中二三四

(11)